

第3章 将来見込と目標

第1節 予想される将来

1 一般廃棄物の将来予測

1-1 ごみ

ごみ総排出量及び処理・処分量について将来予測を行った。

ごみ総排出量は、『原単位法』を使用し、県民1人1日当たり排出量に将来の活動量（排出者の総数：人口）を乗ずることで将来の排出量を求めた。このとき、ごみ総排出量は、市町別に予測し、これらを合算することで県全体の予測値とした。

将来の1人1日当たり排出量は、実績（平成28年度～令和2年度）を利用したトレンド法により算出した。

将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値を使用した。

排出されたごみの処理・処分量は、ごみ総排出量に対する焼却処理量、再生利用量、最終処分量等の比率が、令和2年度と同じとして推計した。

ごみ総排出量及び処理・処分量の将来予測は、以下のフローに示す手順に従って行った。

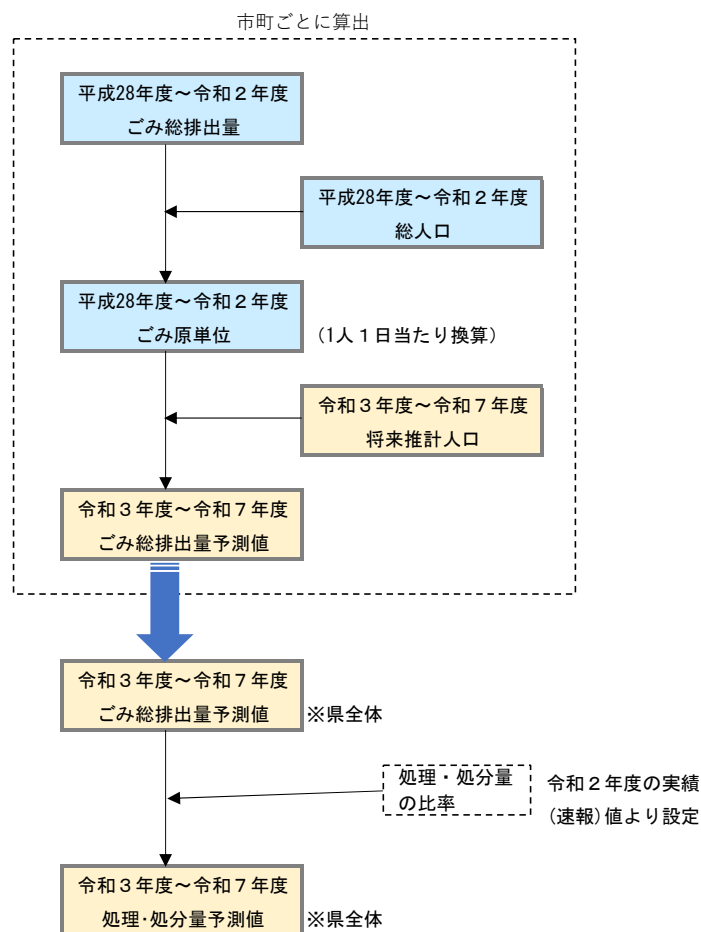


図 3-1-1 ごみ総排出量及び処理・処分量の将来予測フロー

(1) ごみ総排出量の予測結果

令和7年度におけるごみ総排出量は415千トン（令和2年度から5.0%減少）と予測された。

原単位は増減を繰り返し微減傾向で推移すると予測され、人口減少に伴い、ごみ総排出量は減少すると考えられる。

広域ブロック別でも、全広域ブロックでごみ総排出量は減少すると予測される。

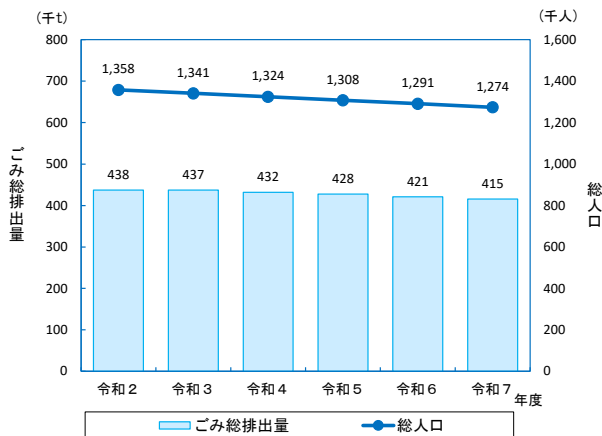


図 3-1-2 ごみ総排出量及び総人口の推移

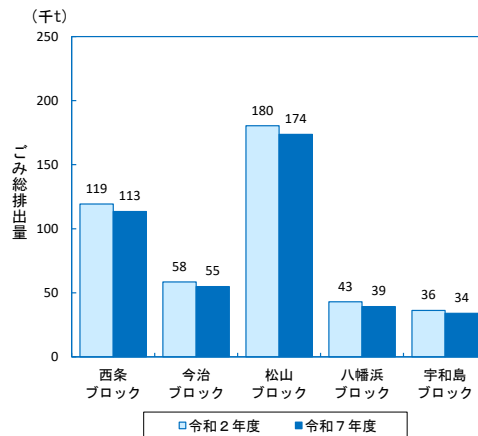


図 3-1-3 広域ブロック別ごみ総排出量の推移

(2) 処理・処分量の予測結果

令和7年度におけるごみの処理・処分量についてみると、ごみ総排出量415千トンのうち、集団回収量を除く計画処理量は411千トンであり、このうち焼却処理量は348千トンと推計される。

また、砥部町のごみ燃料化施設が稼働停止し、焼却処理される影響もあり、再生利用量は合計68千トン、最終処分量は合計37千トンと推計される。

表 3-1-1 処理・処分量の将来予測結果

(単位:千t)

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ごみ総排出量	438	437	432	428	421	415
計画処理量	434	433	427	423	416	411
集団回収量	7	7	7	7	6	6
焼却処理量	363	366	361	358	352	348
再生利用量	74	72	71	70	69	68
最終処分量	40	39	39	38	38	37

1-2 し尿

生活排水処理量は、汲み取りし尿と浄化槽汚泥に分けて、それぞれ将来予測を行った。汲み取りし尿と浄化槽汚泥については、『原単位法』を使用して、1人1日当たりのし尿・浄化槽汚泥の処理量に活動量（排出者の総数：処理人口）を乗ずることで将来の処理量を求めた。

将来の1人1日当たりのし尿・浄化槽汚泥の処理量は、令和元年度と同じとした。将来の活動量（処理人口）は、過年度の推移状況から設定した。

生活排水処理量の将来予測は、以下のフローに示す手順に従って行った。

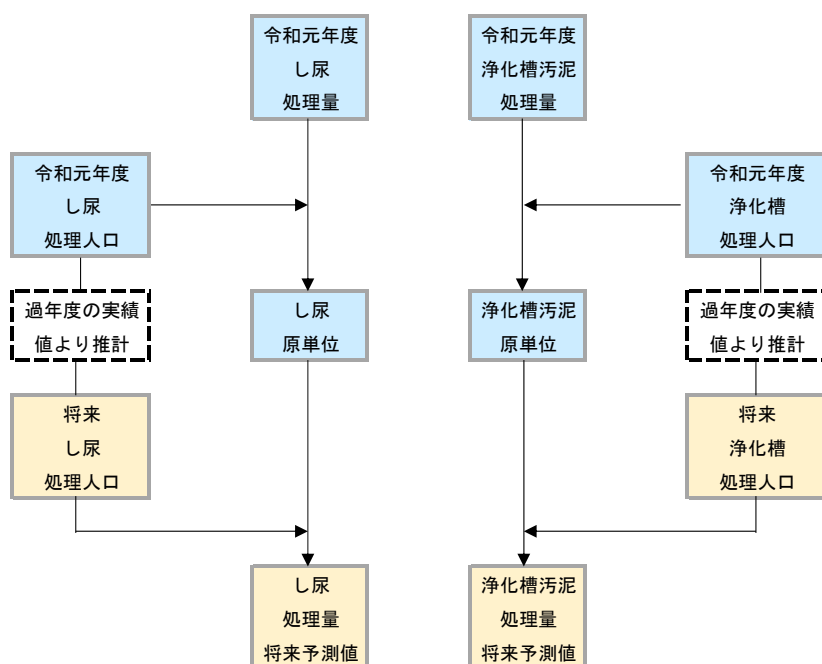


図 3-1-4 生活排水処理量の将来予測フロー

(1) 生活排水処理人口・生活排水処理量の予測結果

令和7年度における生活排水処理量は、人口の減少に伴い処理人口が減少することから、減少傾向で推移していくと考えられ、し尿と浄化槽汚泥合わせて334千kℓ（令和元年度から7.3%減少）と予測される。

表 3-1-2 生活排水処理人口・生活排水処理量の将来予測結果

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
処理人口 (千人)	汲み取りし尿	122	118	114	110	106	103	99
	浄化槽処理	546	543	540	538	536	535	533
処理量 (千ℓ)	合計	360	355	350	346	341	338	334
	汲み取りし尿	107	103	100	96	93	90	87
	浄化槽汚泥	254	252	251	250	249	248	247

注) 浄化槽処理人口は、コミュニティプラント人口、合併処理浄化槽人口、単独処理浄化槽人口より構成される。

2 産業廃棄物の将来予測

令和7年度の産業廃棄物の発生量及び処理・処分量について、令和2年度に実施された産業廃棄物実態調査による将来予測結果を用いた。

産業廃棄物実態調査による将来予測方法は、以下に示すとおりである。

将来における産業廃棄物量の予測に際しては、今後とも「大きな技術革新及び法律上の産業廃棄物の分類に変更がなく、調査時点の産業廃棄物の排出量と各活動量指標の関係は不変」と仮定して、『原単位法』を使用した。このとき、業種別に単位活動量当たりの排出量に将来の活動量を乗ずることで将来の排出量を求めた。

将来の単位活動量当たりの排出量は、令和元年度と同じとした。

将来の活動量の予測は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、令和2年度は実質GDP成長率試算に活動量を乗じて推計し、令和3年度以降は令和2年度を含めた過年度の推移状況より設定した。

原単位の算出、排出量の将来予測は、以下の式より行った。

ただし、排出量の将来予測に際して、災害関連や事業者の大規模開発など通常とは異なり特異的に発生する廃棄物は考慮していない。

原単位の算出

$$a = W/O$$

- ・ a : 産業廃棄物の原単位
- ・ W : 業種別・種類別の産業廃棄物排出量(令和元年度実績値)
- ・ O : 業種別の活動量(令和元年度実績値)

排出量の将来予測

$$W'' = a \times O''$$

- ・ W'' : 当該年度(将来)の予測産業廃棄物排出量
- ・ a : 産業廃棄物の原単位(現状と同値と設定)
- ・ O'' : 当該年度(将来)の業種別母集団の活動量(推計値)

排出された廃棄物の処理・処分量は、産業廃棄物の排出量に対する再生利用、減量化、最終処分等の処理比率が、産業廃棄物の種類毎に令和元年度と同じことを基本として推計した。

産業廃棄物の将来予測は、以下のフローに示す手順に従って行った。

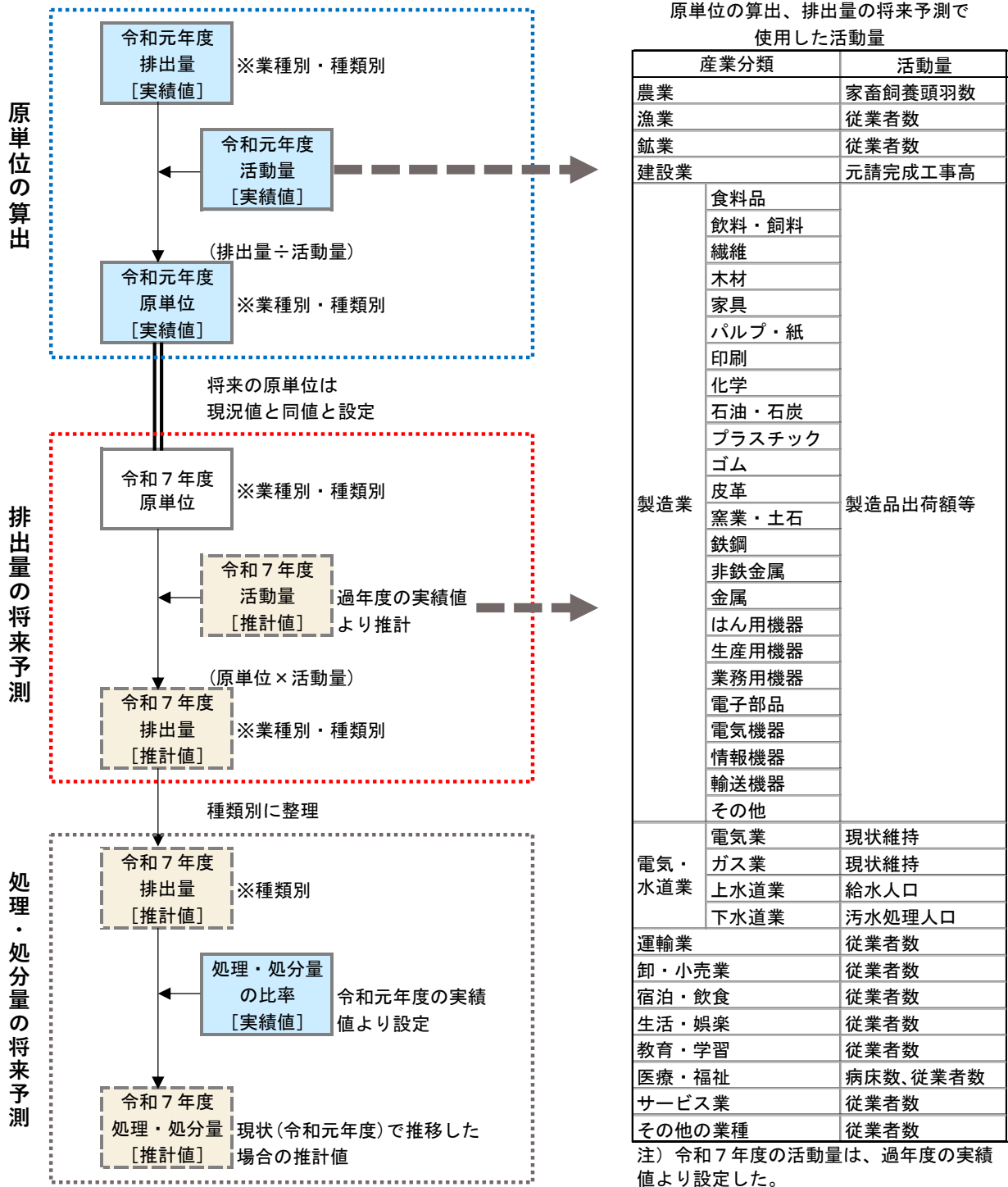


図 3-1-5 産業廃棄物の将来予測フロー

2-1 排出量の予測結果

令和7年度における排出量は7,929千トン（令和元年度から1.7%増加）と予測される。

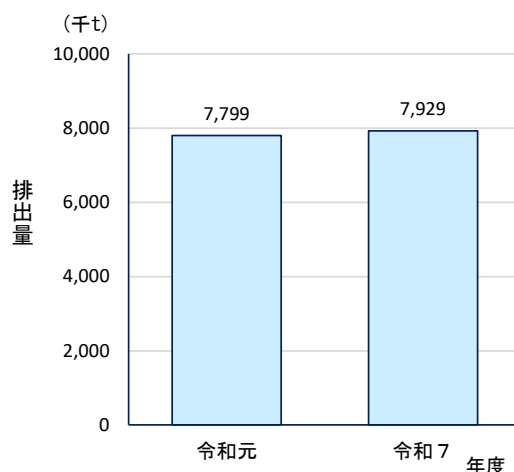


図 3-1-6 排出量の将来予測

(1) 業種別の排出状況

排出量を業種別にみると、電気・水道業、建設業は増加傾向、製造業、農業はほぼ横ばいで推移すると予測される。

表 3-1-3 排出量の将来予測 [業種別]

(単位：千 t)

業種	令和元年度		令和7年度		増減
	排出量	構成比	排出量	構成比	
製造業	5,218	66.9%	5,266	66.4%	0.9%
電気・水道業	1,093	14.0%	1,127	14.2%	3.1%
建設業	737	9.4%	794	10.0%	7.7%
農業	671	8.6%	666	8.4%	-0.8%
その他	80	1.0%	77	1.0%	-4.1%
合計	7,799	100%	7,929	100%	1.7%

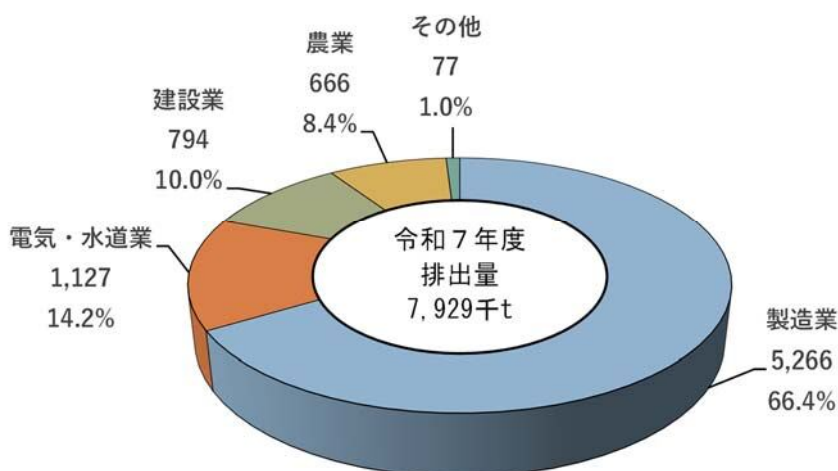


図 3-1-7 排出量 [業種別] (令和7年度)

(2) 種類別の排出状況

排出量を種類別にみると、主要な産業廃棄物のうち、動物のふん尿以外は増加傾向で推移すると予測される。

表 3-1-4 排出量の将来予測 [種類別]

(単位：千 t)

種類	令和元年度		令和7年度		増減
	排出量	構成比	排出量	構成比	
汚泥	5,525	70.8%	5,606	70.7%	1.5%
動物のふん尿	671	8.6%	665	8.4%	-0.8%
がれき類	581	7.4%	625	7.9%	7.5%
ばいじん	497	6.4%	500	6.3%	0.5%
廃プラスチック類	137	1.8%	137	1.7%	0.1%
木くず	81	1.0%	85	1.1%	5.1%
燃え殻	78	1.0%	78	1.0%	0.7%
その他	230	2.9%	233	2.9%	1.4%
合計	7,799	100%	7,929	100%	1.7%

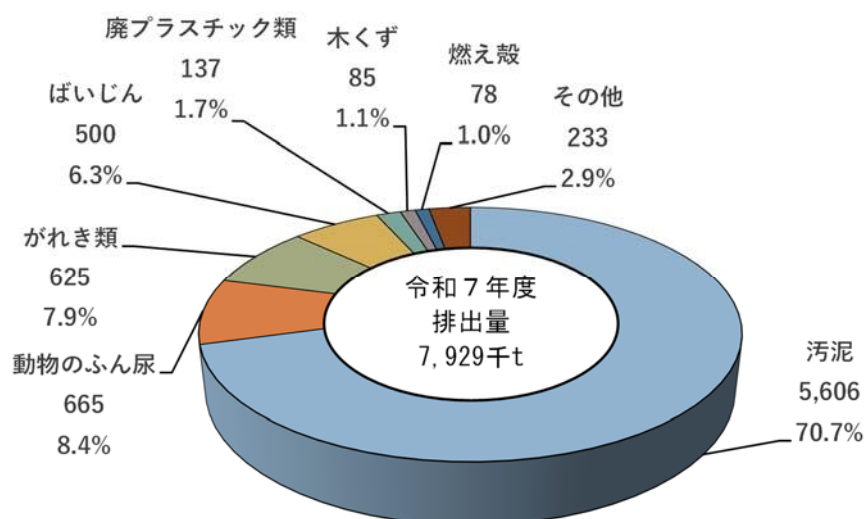


図 3-1-8 排出量 [種類別] (令和7年度)

2-2 処理・処分量の予測結果

将来的に排出量の増加に伴い、再生利用量、減量化量及び最終処分量は、いずれも増加傾向で推移すると予測される。

表 3-1-5 処理・処分量の将来予測

(単位：千 t)

項目	令和元年度	構成比	令和7年度	構成比	増減
	排出量	7,799	100.0%	7,929	
再生利用量	2,318	29.7%	2,367	29.9%	2.1%
減量化量	5,219	66.9%	5,297	66.8%	1.5%
最終処分量	238	3.1%	242	3.1%	1.7%
その他量	24	0.3%	24	0.3%	-0.8%

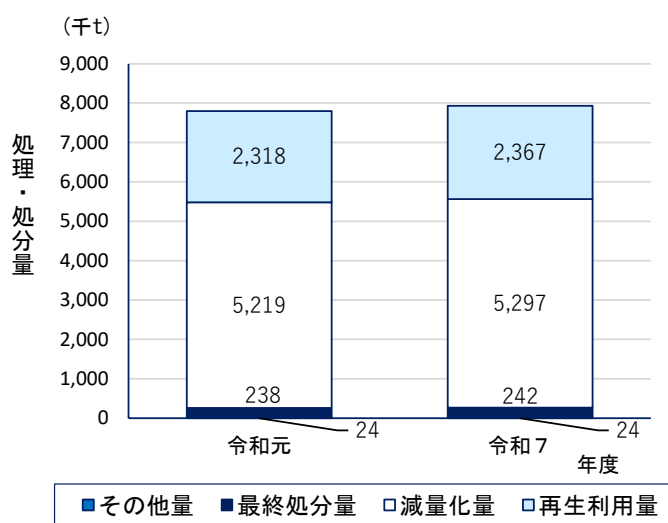


図 3-1-9 処理・処分量の将来予測

令和7年度における主要な種類別の処理・処分量の予測結果をみると、再生利用量で最も多いものは動物のふん尿（再生利用量の27.1%）、減量化量で最も多いものは汚泥（減量化量の97.8%）、最終処分量で最も多いものも汚泥（最終処分量の43.7%）となっている。

表 3-1-6 主要な種類別の処理・処分量（令和7年度）

(単位：千 t)

種類	排出量		再生利用量		減量化量		最終処分量		その他量	
	排出量	構成比	再生利用量	構成比	減量化量	構成比	最終処分量	構成比	その他量	構成比
汚泥	5,606	70.7%	318	13.4%	5,182	97.8%	106	43.7%	0	0.0%
動物のふん尿	665	8.4%	642	27.1%	0	0.0%	0	0.0%	23	96.9%
がれき類	625	7.9%	580	24.5%	0	0.0%	44	18.4%	0	1.5%
ばいじん	500	6.3%	493	20.8%	0	0.0%	6	2.6%	0	0.0%
廃プラスチック類	137	1.7%	62	2.6%	48	0.9%	27	11.1%	0	0.2%
木くず	85	1.1%	72	3.0%	10	0.2%	2	0.9%	0	1.4%
燃え殻	78	1.0%	67	2.8%	0	0.0%	11	4.7%	0	0.1%
その他	233	2.9%	133	5.6%	56	1.1%	45	18.6%	0	0.0%
合計	7,929	100%	2,367	100%	5,297	100%	242	100%	24	100%

第2節 目標（目指すべき指標）

1 一般廃棄物（ごみ）の減量化目標

本県の令和2年度における一般廃棄物（ごみ）の総排出量は438千トンであり、僅かずつではあるが、減少傾向で推移している。また、再生利用率は焼却率の上昇により減少傾向にあり、最終処分量も減少傾向で推移している。

本県において循環型社会を実現するためには、今以上にごみ総排出量を削減するとともに、再生利用率を向上させることが重要である。

このため、排出抑制に資する生活スタイルへの意識啓発やリサイクル推進の更なる取組みなどにより、本県の令和7年度における一般廃棄物（ごみ）の減量化目標を以下のように定める。

一般廃棄物（ごみ）の減量化目標

1. ごみ総排出量を令和2年度から約8%削減する（402千トンに削減）。
（1人1日当たり排出量を令和2年度から約2%削減。）
2. 再生利用率を約28%に増加する。
3. 最終処分量を令和2年度から約12%削減する（35千トンに削減）。

表 3-2-1 一般廃棄物（ごみ）の減量化目標

項目	実績(速報)値	予測値	目標値
	令和2年度	令和7年度	令和7年度
ごみ総排出量(千t)	438	415	402
1人1日当たり排出量(g/人・日)	882	893	865
再生利用率(%)	16.7	16.2	28.0
最終処分量(千t)	40	37	35

（参考）国の基本計画に定める一般廃棄物の減量化の目標

- 排出量：令和7年度は、約3,800万tに削減（平成29年度に対し12%削減）
（令和7年度は、令和2年度に対し、約8%削減）
- 再生利用率：令和7年度は、約28%に増加
- 最終処分量：令和7年度は、約320万tに削減（平成29年度に対し、18%削減）
（令和7年度は、令和2年度に対し、約12%削減）

(1) ごみ総排出量の目標

令和7年度におけるごみ総排出量の目標は、現状（令和2年度速報値）から約8%削減した402千トンと設定する。

目標を達成するためには、令和7年度の予測値から13千トンの削減が必要である。

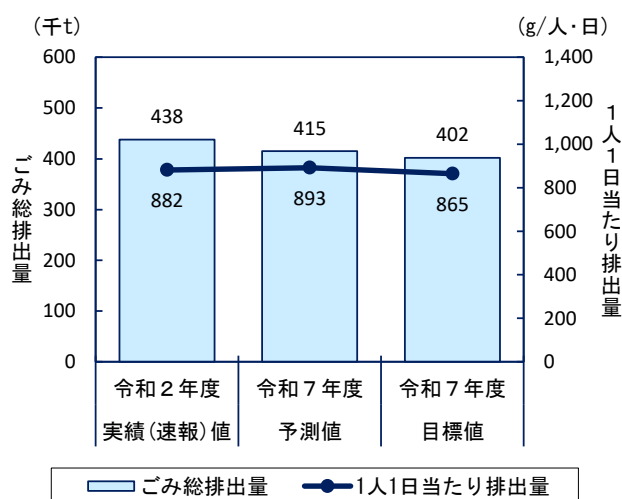


図 3-2-1 ごみ総排出量の目標

(2) 再生利用率の目標

令和7年度における再生利用率の目標は、現状（令和2年度速報値）から約11ポイント上乗せした約28%と設定する。

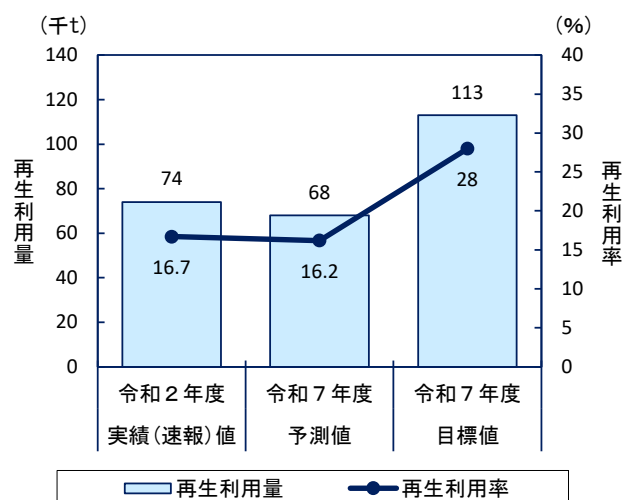


図 3-2-2 再生利用率の目標

(3) 最終処分量の目標

令和7年度における最終処分量の目標は、現状（令和2年度速報値）から約12%削減し、35千トンと設定する。

目標を達成するためには、令和7年度の予測値から2千トンの削減が必要である。

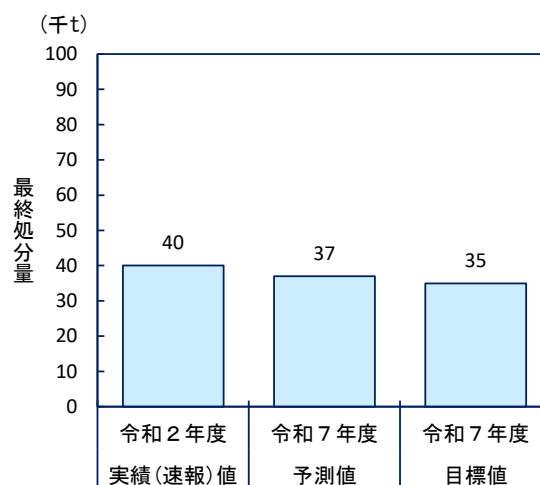


図 3-2-3 最終処分量の目標

2 産業廃棄物の減量化目標

本県の令和元年度における産業廃棄物の排出量は7,799千トンであり、平成26年度から273千トン（3.6%）増加した。また、汚泥の増加に伴い減量化量が増加したため再生利用率は減少し、また最終処分量も大幅に減少した。

本県において循環型社会を実現するためには、再生利用率の向上が必須であり、今以上に進展させることが重要である。

このため、資源循環促進税をはじめとする各種施策やリサイクル推進の更なる取組みなどにより、本県の令和7年度における産業廃棄物の減量化目標を以下のように定める。

産業廃棄物の減量化目標

1. 排出量を令和元年度から約1%削減する（7,720千トンに削減）。
2. 再生利用率を約38%に増加する（再生利用量を2,930千トンに増加）。
3. 最終処分量を令和元年度から約5%削減する（226千トンに削減）。

表 3-2-2 産業廃棄物の減量化目標

項目	実績値	予測値	目標値
	令和元年度	令和7年度	令和7年度
排出量(千t)	7,799	7,929	7,720
再生利用率(%)	29.7	29.9	38.0
再生利用量(千t)	2,318	2,367	2,930
最終処分量(千t)	238	242	226

（参考）国の基本計画に定める産業廃棄物の減量化の目標

- 排出量：令和7年度は、令和元年度に対し、約3%の増加に抑制
- 循環利用率：令和7年度は、約38%に増加
- 最終処分量：令和7年度は、令和元年度に対し、約9%増加に抑制

(1) 排出量の目標

令和7年度における排出量の目標は、現状（令和元年度）から約1%削減した7,720千トンと設定する。

目標を達成するためには、令和7年度の予測値から209千トンの削減が必要である。

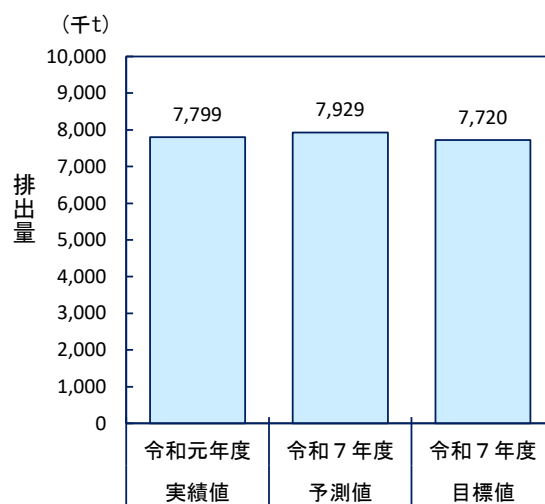


図 3-2-4 排出量の目標

(2) 再生利用率の目標

令和7年度における再生利用率の目標は、現状（令和元年度）から約8ポイント上乗せした約38%と設定する。

目標を達成するためには、令和7年度の予測値から563千トンの増加が必要である。

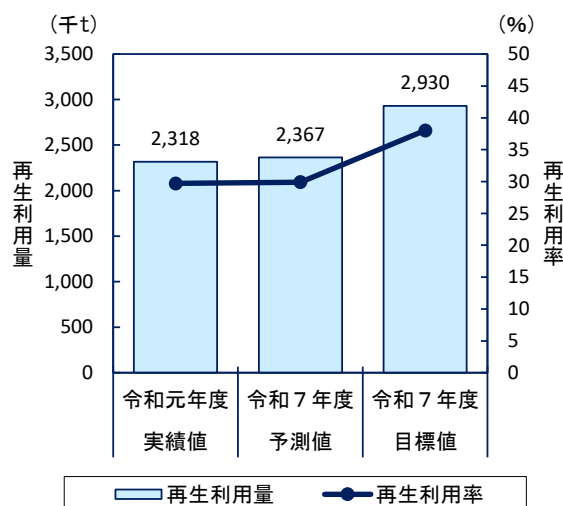


図 3-2-5 再生利用率の目標

(3) 最終処分量の目標

令和7年度における最終処分量の目標は、現状（令和元年度）から約5%削減した226千トンと設定する。

目標を達成するためには、令和7年度の予測値から16千トンの削減が必要である。

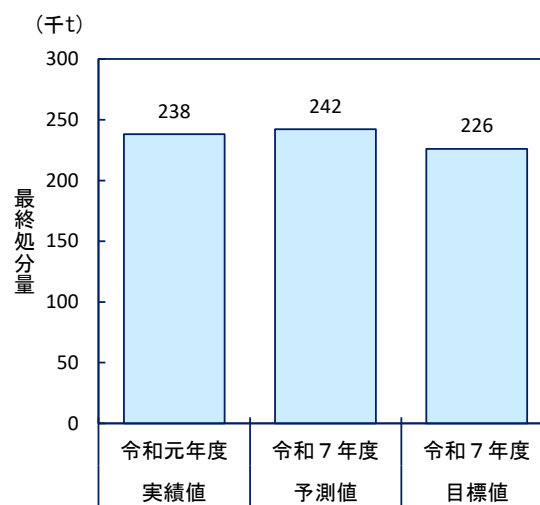


図 3-2-6 最終処分量の目標